

29 日本国際漫画賞受賞者の活躍 -アトリエ・セントウ - (2021年1月28日)

日本の外務省は、2007年に「日本国際漫画賞」(JAPAN International MANGA Award)を創設して、毎年海外で漫画文化の普及活動に貢献する漫画家を表彰しています。応募できるのは日本人以外の作家による作品で、毎年世界各国から数多くの作品の応募があります。

2018年に優秀賞(Silver Award)を受賞した「鬼火(Onibi)」の作者は、フランス人漫画家ユニットのアトリエ・セントウ(Atelier Sentô)です。「鬼火」は、セシルさんとオリヴィエさんが、新潟に滞在していたときの体験から着想を得て、新潟県の田舎での妖怪探しを描いた作品です。日本滞在の記憶と想像を織り交ぜてフランス人ならではの視点で



© Editions Issekinicho

まとめられたこの作品は、日本でも高く評価されました。フランス語版の他に日本語版と英語版も出版されており、3か国語版の合計で約17,000冊が販売されました。今年になってフランス語版は増刷され、子どもからお年寄りまで幅広い世代に愛されている作品です。2月に発売される新刊「La fête des Ombres (影祭り)」も、日本を舞台にした作品です。

アトリエ・セントウのイラストの多くは、お二人が日本滞在中に目にしたものからインスピレーションを得た作品です。イラストと文章で日本を紹介している「Rêves du Japon (夢の日本)」の中で、お二人が日本を好きな理由は、日本がお二人にインスピレーションを与え続ける国だからだと述べています。また、コンクリ



© Atelier Sentô

ートに囲まれた日本の都会の中にも隠れた通り道があるので、日本の田舎と都会を安易に比較しないようにとも語っています。お二人の鋭い感性と観察力は、日本人にも日本を知るための気付きを与えてくれます。

「セントウ(銭湯)」とは、日本の公衆浴場のことです。かつて日本には、壁に富士山が描かれた銭湯が多くありましたが、現在はその数が減ってしまいました。アトリエ・セントウは、セシルさんとオリヴィエさんが感じ取った日本を

## パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

描くための想像上の場所です。アトリエ・セントウは、銭湯のお湯の中で体を温めているときにぽかぽかした気持ちになる作品を、これからも発表してくれることでしょう。